

群馬大学が WHO Collaborating Centre に指定されました

保健学研究科長、
医学部保健学科長

渡邊 秀臣 (昭54卒)



平成25年7月22日付けをもって群馬大学は、世界保健機関（WHO）より正式な協力センター（WHO Collaborating Centre: WHO CC）に指定されました。認可されたWHO CCの正式名称は「WHO Collaborating Centre for Research and Training on Interprofessional Education」（URL 1）です。お気づきのように、1997年に群馬大学保健学科が創立以来継続してまいりましたチーム医療教育（IPE）がこの活動の対象となり、今後WHOと協力して「チーム医療教育の研究と研修」を行います。このチーム医療教育は医学科の教務部会のご協力平成20年より医学科の学生も参加する医学部の取組となっています。現在、日本国内でWHO CCの認定を受けているのは27機関31施設です。その中で大学は12大学（内、国立大学は6校）ですが、保健人材育成部門でのWHO CCは国内唯一のもので

す。WHO CC申請には、4年間の連携活動実績が求められますが、最初にWHOの本部に訪問したのは2008年12月です。この橋渡しをしてくれたのが、現在浜松市で内科を開業されている安川隆子先生（昭和57年医学科卒）です。先生は9年間WHO本部で勤められ、その時からの太いパイプで私たちの活動の糸口を作っていただきました。以来、安川先生のご指導の基に、ジュネーブのWHO本部からスタッフを招聘し、また訪問して共同活動を発展させま

した。一方、日本が所属するWHO地域事務局 Western Pacific Regional Office (WHO/WPRO)がフィリピンのマニラにあり、こちらとは2010年より交流を始めて2013年のCollaborating Centre認定に至っています。

これまでの共同活動の成果として、WHOから昨年11月に21世紀に向けた保健職教育ガイドライン WHO Education Guidelines 2013 (URL 2) が発行されました。医師を含めた全ての保健職教育のガイドラインです。ガイドラインは多職種連携教育を推奨し、専門知識・技術を高めて専門職の質を維持しながら職種間の連携を強化する教育を明記しています。群馬大学の多職種連携教育は、WHOの教育ガイドラインのプロモーションビデオ（YouTube, URL 3）でも活躍しています。

WHO CCの第一期4年間の活動は、1) IPE促進のためのシンポジウムの参加と開催、2) IPEの効果の検証研究、3) アジア地域でのIPE研修の実施、です。その実行組織として「群馬大学多職種連携教育研究研修センター」が学長直属のセンターとして設置され、新聞紙上でも報道されました。本WHOとの交流には教員、学生のWHOでの研修が積極的に推し進められ、これまでに4名の保健学研究科の助教が研修し、7名の保健学科の学生がWHOを訪れています。医学科の皆様にもこの機会を是非ご利用いただき、群馬大学のグローバル化に寄与できれば幸いです。

刀城クラブの皆様には今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

URL1: http://apps.who.int/whocc/Detail.aspx?cc_ref=JPN-89&cc_ref=jpn-89&

URL 2: <http://whoeducationguidelines.org/>

URL 3: http://www.youtube.com/watch?v=rhzJYR_EI2M



多職種連携教育研究研修センター運営委員